

三菱
零式艦上戦闘機 52型

(Planes of Fame)

ハセガワ 1/100スケールプラスチック
キット

製作・文：政府開発援助

1. 現存する零戦について

海軍零式艦上戦闘機は各型合わせて1万機以上が生産されたが、敗戦国の主力兵器であることからそのほとんどが破壊もしくは接收され、現在原形を留めているのは約20機程度と云われている。一方で、二十世紀末頃から「リバースエンジニアリング」という手法で部品を新造することで、何機かの飛行可能な零戦が作られている。その中で、プレーンズ・オブ・フェイムの零戦52型は世界で唯一オリジナルの栄エンジンで飛行が可能であり、これまでに三度来日して飛行している。

2. キットについて

初版が発売されたのは1981年頃で、コインシリーズというヘリコプター・ジェット機のラインナップ(定価100円で、統一スケールではなかった)のひとつです。名称は「52型」ですが、翼内機銃が4門モールドされているので52丙型ということになります。単色成型で、当時では珍しい接着剤不要のキットでした。1994年にシリーズ名がベーシックひこうきシリーズに変化し、箱がなくなりビニール袋包装となりました。その後しばらくして、キャノピー枠と主要部品が塗装された状態のワンアワーコインシリーズとして展開されました。消費税率が5%になった頃にはまだ生産されていましたが、絶版となったようです。零戦は再後発なだけあって手頃なパーツ数・組み立て易さ・美しい凹モールドとも満足できるものでした。ワンアワーコインシリーズでは塗装バリエーションが三種類(うちひとつは零戦22型として販売、ランナー形状は同一)あります。今回は現地応急迷彩型のキットを使用しました。

3. 製作と塗装について

工作に関しては、資料を基に尾部の形状に手を加えた以外は定番のディテールアップを行っただけなので、説明は割愛します。

この機体は初来日時は緑色と白色でまだらに塗り分けられており、「ドッキリ迷彩」と評されたそうです。程なく今回製作したような塗装に改められたようで、二回目の来日はこの状態でした。その後、映画「パールハーバー」出演の為、より戦時中に近い状態に再塗装されており、三回目の来日はこの状態です。ちなみにハセガワからは二回目の来日時に、追加デカールによりマーキングが再現できる1/32,1/48,1/72キットが発売されました。写真等を見る限り、上面の緑色はかなり鮮やかです。これは容易に入手できる塗料の中から選択した可能性があると考えました。そこで機体下面をラッカー系のライトグレーFS36495で、上面をエナメル系の緑色で塗り分けました。塗り分けパターンは



前方より

中島製のものとなっています。カウリングとプロペラブレードは黒色、スピナーは銀色、排気管はメタリックブラウン、味方識別色は以前別件で調合したレモン色に近い黄色、コクピット内部は三菱機体内部色(主にラッカー系)を使用しています。日の丸は胴体のものにも白フチが付いているのでワンアワー22型のデカールを流用、機番は迷彩型キットのものです(下地が透けたので二重貼りました)。白線は前述の1/48キットのデカールをスキャンしてMDプリンタにて自作。オマケとしてランナータグを切り出してネームプレートを作ってみました。



後方より

4. 参考画像



初版のボックス。いわゆるヤマトメカコレのサイズである。当時のもの故痛みがある。



ベーシックシリーズはこの様な袋に入っている。イラストは1/72キット(新)の流用。



ワンアワーの迷彩版を開封したところ。ランナー状態でここまで塗り分けられている。



上から順に、モールド追加用テンプレート、座席ヒートプレス用元型、平行スジボり用器具。